

病理診断科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	非淡明細胞型腎細胞癌における予後因子に関する臨床病理学的検討
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 羽生田 正行
担当科等	病理診断科
研究責任者	(職名) 教授 (氏名) 都築豊徳
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	新潟大学医学部病理組織標本センター (共同研究機関) 助教 大橋 瑠子
研究の意義・目的	発生頻度の稀な非淡明細胞型腎細胞癌、特に嫌色素性腎細胞癌の病理組織形態と染色体異常の違いに着目し、染色体異常を反映する形態学的因子と免疫染色マーカーを探索し、嫌色素性腎細胞癌の予後を推定可能な新規組織亜型分類の提案と、他組織型との鑑別に有用な新規病理診断手法の開発を目指します。
対象となる患者さん	2001年1月から2018年12月までに腎細胞癌と診断された患者さん
研究の方法	腎癌で手術を受け、非淡明細胞型腎細胞癌と病理学的に確定診断を受けた患者さんが対象となります。病理診断に使用したホルマリン固定パラフィンブロックを用いて、vimentin、CK7などの免疫染色を行います。TFE3転座型腎細胞癌など染色体転座の検出が確定診断に必要な組織型ではFISH法やRT-PCR法およびサンガー法によるダイレクトシーケンスを行います。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2018年12月31日
研究に用いる試料・情報	試料：病理診断に用いられたホルマリン固定パラフィンブロックを使用します。 情報：典型的症例では免疫染色による診断の確認を行います。染色体転座の検出が確定診断に必要な組織型ではFISH法やRT-PCR法およびサンガー法によるダイレクトシーケンスを行います。
外部への試料・情報の提供	なし
試料・情報の利用又は提供を希望しない	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。

場合	
その他	
問い合わせ先	愛知医科大学病院 病理診断科 担当者：(職名) 教授 (氏名) 都築豊徳 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 37410)